

まちの「今」をお届けします



液体窒素を使った実験に驚きの表情



高校生に教わりながら実験をする来場者



心臓の音を聴いてみたよ



薬の包み方を体験

みて、きいて、ふれて、体験しよう！

第9回かがく博覧会を開催しました

市と山口東京理科大学は、平成18年2月に包括的連携協定を締結し、様々な連携協力事業を実施しています。「かがく博覧会」もそのひとつで、科学・理科に対する興味・関心や好奇心を呼び起こし、多くの人に科学の魅力や面白さを知ってもらうため、平成22年からスタートしました。

今年で9回目となる「かがく博覧会」は、9月29・30日の2日間にわたり、おのだサンパークで開催し、3,180人が来場。会場には、山口東京理科大学、市内4つの高等学校、6つの企業によるブースが並び、来場者は科学の持つ楽しさや驚きを体験しました。また、小中学生「科学作品展」では、小学校137点、中学校60点の作品が展示され、来場者は直接手にとって観賞したりしていました。

今年4月に開設した山口東京理科大学の薬学部からは、教授や学生が薬学に関するブースを出展。29日の「人体の科学と薬剤師体験」では、聴診器で心臓の音を聴いたり、血圧計で血圧を測ったり、医薬品集で薬の種類を調べたりしました。30日の「くすりの秘密とくすりの飲み方と工夫」では、薬包紙を使って薬の包み方を体験。実際の薬の代わりにビーズ等を包み、飲み方や日付を記した薬袋やくたいに入れて持ち帰るなど、来場者は日ごろ触れることのない薬学を学んでいました。

子どもたちの理科離れが指摘されていますが、「なぜ？」という疑問を持つことが大切です。かがく博覧会で様々なことを体験した子どもたちが、科学や理科に興味・関心を持ってくれることを期待します。